



上田市立東小学校
学校だより

望と勇

令和5年7月19日

No. 11

《東小学校ホームページ》 www.school.umic.jp/higashi/ もご覧ください。(最新情報ほぼ毎日更新中)

自分の命は
自分で守る

登下校時の正しい歩き方
帰宅後の安全な自転車の乗り方

交通安全意識の向上

本校にとって「交通安全意識の向上」は最重要課題の一つであり、「身体と命は自分で守る」危機管理能力(判断力・予知力)の向上と習慣化を図る取組は、日々の学級指導でも行っています。更に、我々学校側が気づけない・知らない所で、地域・保護者・PTAの皆様より、児童の登下校や自転車乗りに関わる危険な行動についてご指摘・ご連絡をいただき、大変感謝しております。また、気がつかれたその場で、その子たちに直接指導をしていただいている場面も多いとお聞きし、地域の子どもたちを共に育てていただいていることに感謝申し上げます。「横断歩道を使わず道路を渡る」「横断歩道でいったん止まらず、急に飛び出す」「道いっぱい広がって歩いている」「用水路・堰等を跨ぎながら歩いている」「自転車に乗って一時停止線で止まらず、突っ走っていく」「ノーヘルで自転車に乗っている」等です。学校でも学級担任より注意を呼び掛けております。しかし、学校で指導したからといって、「身体と命は自分で守る」危機管理能力が急に向上して、「登下校中の交通事故が0」に即結び付くというものではありません。保護者・PTA・地域の方々の協力を得て、子どもたちに自分の通学路の危険箇所や安全歩行のポイントが理解できるようにしていきたいと考えております。子どもたちの歩行や自転車乗り等について、お気付きの点がありましたら、ぜひ現場にて具体的に指導していただくか、学校までお知らせいただくと大変ありがたいです。

ひんがし応援隊の学校支援活動が一気に加速
4年ぶり復活! 「うさぎのしっぽ」の皆さんによる読み聞かせ



コロナ禍で3年間休止状態だった、読み聞かせボランティア「うさぎのしっぽ」。中心メンバーの皆さんのお子さん卒業等に伴い、今回新たにボランティアメンバーを募集。読み聞かせ支援コーディネータの方が中心となり、4年前まで「うさぎのしっぽ」に所属していた方、OBの方、読み聞かせサポーターの方、そして新たに読み聞かせ支援に興味をもたれ、新規に応募された方等も集まっていただきました。ボランティアは負担を感じることなく、できることをできる範囲で、そしてできる時に、関わっていただけることが、長続きの秘訣かなと思います。子どもたちは、瞳を輝かせてこのひとときを待っています。「ひんがし応援隊」の活動及びサポートが広がっていくことに感謝であります。まだまだ新規メンバー募集中。これからも宜しくお願いします。

その子のよさや可能性を伝えたい「通知表」

○「通知表」の役割 通知表は、一定期間の子どもたちの学校生活の様子や学習指導の成果を本人、保護者に知らせることによって、本人の今後の一層の努力を促す契機とするとともに、保護者の方が我が子を理解し、指導する上で貴重な資料となり、その子どもの教育について家庭の理解と協力を求める重要な役割を果たすものです。しかし、大切なことは単にその子の学習や生活の様子を通知するためのものではなく、その子のよさや可能性を更に伸ばすためのものであることを、保護者の方にも十分認識していただきたいと思います。一人一人が頑張れたこと、成長できたことを教師側がとらえて、お家の方にも伝わるように表記したつもりですが、教師側のとらえもまだまだ十分でない点やその子のよさや可能性が十分に伝わるような表記ができなかった点もあるかと思っています。また子どもたちは日々成長していますので、教師側がとらえたり評価したりした時点の姿と若干変化してきている点もあるかと思いますが、その点につきましては、今後も長い目でとらえていきたいと思っています。ぜひとも子ども自身が頑張れたこと、成長できたことをとらえ、認めてほしいと思います。決して「◎や☆(△)の数」ばかりに目がいたり、「通知表」をしかる材料にはしたりはしないでください。

○「目標に準拠した評価」の重視と「個人内評価」の工夫

「目標に準拠した評価(絶対評価)」とは、他者との比較ではなく、その子の到達度に対する評価を一層重視することです。各教科の項目には評価規準に対して、「◎⇒十分達成している」「○⇒達成している」「☆⇒自分の課題、見直し頑張りポイント」の言葉が並びます。もちろん評価は評価で終わりではなく、指導と結びついた評価ですので、到達していなければ教師側もその後の指導を考えていかなければなりません。また子どもたちの学ぶ意欲や問題解決能力を伸ばすことを目的とし、自己評価やその子自身の伸び(進歩の状況)を大切に評価していく「個人内評価」を組み合わせることで評価をしていきます。今後もその子のよさや可能性を十分にとらえていきたいと考えています。

○「自分の頑張りポイント」の項目があった子どもたちへの指導の見直し

今年度より、子どもたちの更なる自己肯定感育成の観点より、「3段階評価のC評価」の表記を「△⇒努力しよう」から「☆⇒自分の課題、見直し頑張りポイント」に変更しました。これは「△」の表記が、時には自信喪失や自尊感情の低下に連動してしまう可能性もあるからです。一学期における学習過程や生活の姿の中において、様々な手だてを講じたものの、結果として「☆自分の課題、見直し頑張りポイント」の状況の評価となってしまった子どももいます。そのことについては、二学期以降、一人一人の子どもが基礎的・基本的な内容を確実に定着できるように、不十分な点を補完しつつ、個に応じたきめ細やかな指導に努めていきたいと考えているところです。

楽しみながら夏休みを前に 第1回地区別児童会



7月6日(木)の朝の時間に第1回地区別児童会が行われました。各支部とも三役の6年生がしっかりと進めてくれました。支部によっては、会場いっぱいになるくらいの人数です。夏休みを前に、夏休みや日頃の各地区での生活を、安全に、楽しく過ごせるように、みんなで話し合って、地区行事の計画を立てたり、約束事を確認したりしました。支部長さん、校外指導部員さんには、わざわざ来校していただき、支部ごとの地区行事の予定等を話していただきました。ありがとうございました。まさに「地域の子どもは、地域で育てる」夏休みに向けて、期待感が高まる機会となりました。